

9 ヘルシーサンデー（健康まつり）事業（変更）

（１）実施状況

○昭和58年に第1回の健康まつりを開催してから平成24年度で第30回を迎えた。

○昭和58年度～：単独開催

平成17年度(第23回)～：4催事合同開催

平成21年度(第27回)～：3催事合同開催

○参加者数は、ここ3年間は1,000人前後で推移している。

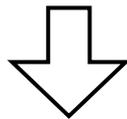
（２）平成25年度以降の健康まつりの考え方について

○保健連絡員活動によるミニ健康展の開催

平成19年度よりそれまで健康まつりで実施していた人気コーナー「血液さらさら」測定器を保健連絡員のグループ活動において利用できる体制を整えた。身近な会場で体験できミニ健康展が始まった。

○拠点となる会場も6地区に整備された。

（6地区とは：小牧南・小牧・巾下・味岡・篠岡・北里）



各地域の中での健康展の開催が定着してきたことから、平成25年度以降は行政主体から地域主体の、より身近な場所での開催としていく。

(3) 平成24年度までと平成25年度以降の比較

	～H24年度	H25年度以降
実施主体	行政	地域
開催回数	中央で1回	市内を6地区に分けての開催を基本とする
内 容	<p>【合同展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康まつり 各種相談（健康・薬）、歯科健診、がん検診、健康測定機器等による健康チェック。 連絡員、食改等による発表。 <p>等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護展 介護サービス紹介 等 ・福祉展 ボランティア活動紹介、バザー 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域（連絡員）と相談のうえ内容を決定 →健康チェック（健康測定機器、体力測定機器、身体・血圧計測 等） →連絡員等のボランティアの活動発表 →その他、 <ul style="list-style-type: none"> ①がん死亡撲滅モデル地区に当たる年は、がん検診日に健康展を同時開催（2地区指定／年） ②高齢者の多い地域、子育て世代の多い地域と地域の特性に合わせた内容 ③福祉・介護分野の参加は必要に応じて調整参加 ④成人歯科健診、骨粗しょう症健診等と同時開催することも有。
開催月	5月	各地区により決定
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・他の催事（福祉展・介護展）の参加目的である市民の相乗効果がある。 ・長年の取り組みにより、市民の中に開催月及び会場等が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より近くの会場で実施することで参加が得やすくなる。 ・地域の特性（住民の年齢層）にあわせて内容を考えることができる。 ・保健連絡員主催ということで地域の方々に対して勧奨しやすい（地区区長会の協力を得る）。 ・地域包括支援センターとの連携により、その担当地域の住民を対象とした介護予防の取り組みをすることが可能である。同時に地域包括の存在を周知することができる。 ・地域の行事を考慮して日程を決定できる。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・会場から遠い地域の市民の参加が得られにくい（参加者が偏ってくる） 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日は日曜日とは限らない。